

終始荒れ水面の乱戦シリーズ  
最後は稲田浩二がイン速攻V



三国

2/2~8

G I

近畿地区選手権



中止順延の影響もあり、予選は5日間、52Rで行われた。予選トップの小池修平が準優勝で敗退、予選2位の馬場貴也は逃げて勝利も、待機行動違反で賞典除外となり、ポールポジションが回ってきたのは予選3位で準優勝を逃げて勝った稲田浩二。2号艇には準優勝して勝ち、波乱を演出した萩原秀人。3号艇に連覇を目指す山崎郡、4号艇は当地4節連続優出の古結宏、5号艇に今年早くも2度目のG I優出となった井上一輝、6号艇は繰り上がりで松田祐季が入った。安定板装着の周回短縮で行われた優勝戦。枠なり3対3の並び。インの稲田がコマ04とただ1人0台スタートを決め、他艇を寄せ付けず、逃げきったの優勝。大混戦の2着争いは松田が制し、井上が3着。3連単は万舟券となった。

シリーズ展開

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	稲田 浩二	40	兵庫	2221411	1	04
2		⑥	松田 祐季	38	福井	5134143	6	18
3		⑤	井上 一輝	30	大阪	1321642	5	14
4	○	②	萩原 秀人	45	福井	5432221	2	17
5	×	④	古結 宏	47	兵庫	4123232	4	11
6	△	③	山崎 郡	35	大阪	43413112	3	17
2連単		①-⑥	3320円	11番人気	逃げ			
3連単		①-⑥-⑤	17920円	44番人気				

節間通して寒波の影響を大きく受け、最終日も1Rから安定板装着の2周レース。突風が吹いたり、吹雪いてきたりと天候の変動が凄まじい中、慌てず騒がずの堂々イン速攻で、稲田が見事初の近畿最強の座を獲得した。今節相棒だった49号艇は「前検から雲囲気も良かった」と語っており、「水面は荒れてたが落ち着いてレースできていた」と振り返った。近畿地区選手権初優勝については、「信じられない。そうそう獲れるとは思っていなかった」と語り、「これで出られるSGもあると思うので、また上を目指して頑張っていきたい」と今後のSG戦線での活躍を見据えていた。近畿チャンプとして、今年これからの大いに期待したい。(実況アナウンサー 高橋敬亮)

現場記者の目

3日連続中止のアクシデントも…  
井口佳典がクラシック行きを決めた!



津

2/3~10

G I

東海地区選手権



注目の初日ツッキードリームを制したのは井口佳典。イン一気に進めてまずはシリーズの主導権を握ることに成功。Wドリームが2日目に予定されていたが、まさかの中止順延。明くる日も、風は収まらず3日間連続の中止という大アクシデント。そのため、6日間開催は5日間開催へ短縮という、99年の住之江高松宮記念以来となる異常事態となった。さらにアクシデントは3日目、わずか2Rを終えた段階で中止打ち切りとなり、予選26個レースで準優勝18選手が決められるという前代未聞のG Iに。予選トップの井口は準優勝で菊地孝平にまくられ2着となったが、優勝戦はピット離れで菊地を叩き4カド、見事なまくり差しを決めて、地区選3回目の制覇を成し遂げた。井口は若松クラシック出場への最終切符を獲得。

シリーズ展開

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	△	④	井口 佳典	47	三重	1312	4	09
2		⑥	中山 雄太	40	愛知	1432	6	17
3	◎	①	磯部 誠	34	愛知	2221	1	22
4	×	②	笠原 亮	45	静岡	1321	3	16
5	○	③	菊地 孝平	46	静岡	5211	5	08
6		⑤	北川 潤二	42	愛知	1232	2	23
2連単		④-⑥	4530円	18番人気	まくり差し			
3連単		④-⑥-①	16860円	55番人気				

波風や気温の変化。天候はレースにおいて絶妙なスパイスになるものだが、さすがに今回の地区選は度が過ぎた。天気予報を上回る西風が吹き、施行サイドも中止打ち切りという苦渋の決断を強いられた。わずか26レースの予選では枠番も均等に渡るわけもなく、そこは選手側も致し方ない…そんな空気が流れていた。エンジン状況も把握が難しく、優出したメンバーでさえ自分がどの位置にいるのかすら見えない相場。それだけに自分の体感をしつかり持っていた地元エース・井口佳典は素晴らしかった。菊地孝平のピット離れの甘さに気づき、優勝戦はそこに第一の勝負所を持って行った判断力。そしてそのとおりに仕上げた調整力。すべてがエースの仕事だった。(中日スポーツ 高橋亮考)

現場記者の目

## 転がり込んできたV戦1枠 島村隆幸が初の四国チャンピオンに！



丸亀

2/4~10

GI

四国地区選手権



シリーズ展開

初日は全レース安定板装着、本番レース2周。最強寒波による強烈な向かい風が吹き、シリーズは荒れ水面で開幕した。初日メインの「スマイル君ドリーム」は地元エースの片岡雅裕がインから押し切って快勝。2日目はさらに水面が悪化して1Rから発走を見合わせていたが、中止順延が決定した。仕切り直しとなったWドリーム第2弾の「なるちゃんドリーム」は島村隆幸がイン完勝、森高一真が2着。3日目も強風が続き7R以降、中止打ち切りとなった。予選トップ通過を決めたのは森高。島村が2位で続き中村日向が3位。それぞれ準優1枠を獲得したが、島村中村日の1着クリアに対して、森高はオーバートーンが響き2着での優出。優勝戦のポールポジション1枠は島村の手に渡った。

現場記者の目

連日、強烈なホーム向かい風で大荒れ水面が続いていたが、Vへの追い風は確実に島村に吹いていた。予選2位で乗った準優10Rは逃げ切ったとはいえ、コンマ00で生き残るツキ。そしてその後の準優11Rではトップの森高が2着通過でファイナル絶対好枠が巡ってきた。先マイした優勝戦本番もカド4コースから強襲した森高と5コース林美憲の差が入っていたが、2マークでその両者が競る展開になり差し返してのV。「完全にやられてましたね。2マークで森高さんが握ってくれたので…。運一本でした」と振り返る。結果的に2着惜敗だった森高の気迫あふれるレースも素晴らしい。初の四国チャンピオンに輝いた島村、今年はSGの舞台でも結果を出すはずだ。(A)

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	島村 隆幸	34	徳島	211411	1	12
2	△	④	森高 一真	46	香川	12222	4	10
3		⑤	林 美恵	50	徳島	3312342	5	13
4		⑥	近江 翔吾	31	香川	1442312	6	15
5	×	③	西岡 顕心	23	香川	22142転1	3	15
6	○	②	中村 日向	26	香川	213211	2	14
2連単			①-④	480円	3番人気	抜き		
3連単			①-④-⑤	2650円	12番人気			

## 強敵をなぎ倒した連勝劇！ 渡邊和将が地区選初制覇！



徳山

2/8~13

GI

中国地区選手権



シリーズ展開

最近の中国地区は茅原悠紀、山口剛の2強ムード。そこに地元寺田祥がどこまで迫れるかが焦点だった。迎えた初日DR戦は1枠シードの寺田祥がイン速攻で快勝。茅原が2着、山口剛は6着に終わった。2日目のDR戦はオール女子による争い。1枠寺田千恵は、5枠實森美祐のまくり差しに屈したかに思われたが、2Mで冷静に差し返し成功。寺田千が1着で、實森は2着。男女ともに1枠の勝利だった。最終的に茅原は2位、山口剛は8位、寺田祥は15位で予選を突破。女子は實森が11位で、清水愛海が17位でベスト18入り。實森は準優も突破して初の男女混合GIで優出を果たした。ただ、最も躍動したのは渡邊和将。初日後半から5連勝を飾って予選を1位通過。準優、優勝戦でも圧倒して初の中国チャンピオンに輝いた。

現場記者の目

戦前の興味はエース40号機を誰が手にするか。そのお宝を引き当てたのは地元森永隆。直線気配を中心かなりの動きだったが惜しくも予選敗退。それでも繰り上がって出場した最終日の特別選抜戦で2着に入るなど見せ場は作った。元エースの18号機は清水愛海が獲得し、初のGI予選突破も果たした。男女混合GIでも活躍できることを証明しただけに、今後も楽しみな存在だ。実力接近の記念レースはやはり好素性機を引くのがVへの近道。優勝した渡邊和将の11号機も夏場まで好調のエース候補だったが、ここに来て復活のハイパワーだった。渡邊はこの優勝で3月のSGクラシックの出場権をゲット。今回のように勢いに乗れば大舞台での活躍もおおいに期待できる。(日刊・測上)

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	渡邊 和将	34	岡山	6111111	1	06
2	○	②	吉田 拓郎	42	岡山	2332211	2	15
3		⑤	船岡洋一郎	37	広島	1453132	5	07
4	△	③	山口 剛	42	広島	6225121	3	12
5		⑥	平尾 崇典	52	岡山	2155222	6	13
6	×	④	實森 美祐	28	広島	3323242	4	09
2連単			①-②	230円	1番人気	逃げ		
3連単			①-②-⑤	1230円	4番人気			

3年連続GP出場へ視界良好！  
土屋智則が関東ダービー初制覇！



戸田

2/9~15

GI

関東地区選手権



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	土屋 智則	40	群馬	2122311	1	06
2		④	北山 康介	35	東京	1522212	4	12
3	×	②	佐藤隆太郎	30	東京	3134121	2	12
4		⑥	島田 賢人	36	埼玉	1461332	6	21
5	△	⑤	桐生 順平	38	埼玉	1235162	5	16
エ	○	③	関 浩哉	30	群馬	2314411	3	10
2連単		①-④	1170円	4番人気	逃げ			
3連単		①-④-②	4200円	15番人気				

初日DR戦は桐生順平、2日目DR戦は毒島誠。関東2大エースがそれぞれ逃げを決めて、賞祿を見せる。ただ、ともに舟の向きやターンに不安が…。追い風水面の影響もあり、普段の強烈なターンは影を潜める雰囲気だった。そんな中、ターン回りを仕上げた土屋智則、佐藤翼が安定感ある走りでもとめる。エンジンパワーで沸かせたのはエース47号機の土屋千明。東京勢ではダービー優勝機の25号機の北山康介、上位エンジン9号機の佐藤隆太郎がスリット付近の足を武器に活躍した。優勝戦は関東3地区からバランス良く2選手ずつが勝ち上がる形となった。絶対枠を手に入れたのは予選トップ通過の土屋智則。最後は気合の06全速スタートから押し切り、GIレースは3度目のV。初の関東チャンプに輝いた。

冬型の天候が猛威を振るった今年の地区選。戸田でも北西の風が強く、追い風主体に。安定板装着や2周戦のレースもあり、また、5日目の競走が1日順延するアクシデントも発生した。日々の調整に迫られ、直前までペラと向き合う選手が結構いる中、優勝した土屋智則は初日にギヤケース交換、ペラを自分の形に叩いて以降は微調整でレースを行っていた。早めに調整が固まったことで、スタートのズレも少なく、レースに集中できたことが勝因につながっていた。優勝戦は06全速スタート。ここの一番での勝負強さもSG2Vの要因にもなっているように思えた。近況は着実に結果を残しており「3年連続の」グランプリ出場を目指したい」と。好調群馬勢を支えるひとりとして今後も注目だ。(ガイド・長谷川)

シリーズ展開

現場記者の目

地元クラシックに滑り込んだ！  
仲谷颯仁が2度目の九州チャンプ！



大村

2/10~15

GI

九州地区選手権



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	×	②	仲谷 颯仁	30	福岡	4311221	2	06
2	◎	①	羽野 直也	29	福岡	144211	1	09
3	○	④	峰 竜太	39	佐賀	3251132	4	12
4		⑤	平田 忠則	48	福岡	132522	5	17
5		⑥	松田大志郎	37	福岡	2413343	6	14
転	△	③	定松 勇樹	23	佐賀	3133112	3	07
2連単		②-①	2690円	9番人気	差し			
3連単		②-①-④	6330円	19番人気				

一層の厚い九州らしく、豪華なメジャーがそろった。初日と2日目のDRはどちらも6人がゼロ台のスタート。初日は原田幸哉、2日目は瓜生正義が逃げ切った。ただ、原田幸はターン回りが来なくて予選落ちとなった。4日目に連勝した定松勇樹が予選1位。2位が羽野直也、3位が仲谷颯仁と比較的若い選手が活躍した。準優は進入が乱れた9Rで波乱。岡村慶太が5カドからまくったものの、不良航法で賞典除外。定松はまくられて絶体絶命の状況から驚異の大逆転で2着。3着だった松田大志郎が繰り上がった。10Rは羽野が速攻。2着競りが激しく、道中まくり連発の平田忠則が桑原悠を競り落とした。11Rは仲谷が逃げ、峰竜太が追走。優勝戦は羽野がまさかのターンミス。仲谷が見逃さず差した。

羽野にとっては若松クラシック出場へ絶好のチャンスだったが、ターンが大きく流れてしまった。となれば、2コース仲谷にとっては、よだれが出るほどの好展開。レース後には「キターって思いました」と振り返っている。GI初優勝を狙った定松は1周1Mで転覆。仲谷は2Mを慎重に回ると、そのまま先頭でゴールした。2018年の第64回九州地区選手権(若松)に続いて7年ぶり2度目のGI優勝を飾るとともに、地元若松SGへの出場を決めた。「クラシックに行けるのはムチャクチャうれしいです。中田達也さんのカップを履いて勝つことができました。僕も褒めてほしいんですけど、中田達也さんも褒めてやってください」。心(ハート)も優しいヒーローだった。(スポーツ報知・長谷昭範)

シリーズ展開

現場記者の目

妻・土屋南の誕生日を祝った！  
佐藤翼がG II 初制覇！



大村

1/27~2/1

G II

モーターボート誕生祭



シリーズ展開

DRは原田幸哉、辻栄蔵、瓜生正義、羽野直也、篠崎仁志、佐藤翼の6人。辻が中間整備から急上昇の14号機を引き当てる。DRは原田が01のトップSから逃げたが、「特訓から辻選手がすごかった」と驚いていた。3日目までは安定板が装着されるなど水面コンディションは悪かったが、3日目終了時点では節イチの辻とオール2着の西野翔太がトップタイ。ただ、予選最後は外枠でどちらもポイントダウン。最後に1号艇を残していた佐藤が1位となった。準優は渡邊和将、原田、佐藤の1号艇トリオが1着。2着には辻木下雄介、海野康志郎が入った。6コースから差した木下はG II以上では初優出となった。優勝戦は佐藤が押し切ってG II初優勝。回り足すこかった辻が2着、原田が3着に入った。

現場記者の目

昨年は初めてグランプリに出場した佐藤。ピットでは真新しいGプレーシングスーツがまぶしいほどの輝きを見せていた。そしてDRに選ばれたことを素直に喜んでた。2連対率は28%ながらも、中間整備が入ってからの上昇機だったので動きは決して悪くなかった。予選ラストのイン戦をモノにしてトップ通過。準優 優勝戦と3日連続での1号艇は危なげなく逃げ切った。GIは21年に児島周年で優勝しているが、G IIは今回が初めて。じつは前検日の1月26日が妻・土屋南の誕生日だった。「プレセントに優勝してほしいって言われたんですよ。こんな、ドラマチックなことってあるんですね」と最高の誕生日プレセントができたようだ。今年はSG優勝にも期待したい。

(スポーツ報知・長谷昭範)

着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	佐藤 翼	36	埼玉	611311	1	12
2	×	④	辻 栄蔵	49	広島	242142	4	20
3	○	②	原田 幸哉	49	長崎	133321	2	11
4	△	③	渡邊 和将	34	岡山	113611	3	18
5		⑤	海野康志郎	37	山口	133232	5	17
6		⑥	木下 雄介	29	滋賀	2621432	6	16
2連単	①-④	390円	3番人気	逃げ				
3連単	①-④-②	1070円	4番人気					

## マクール杯 BTS朝倉開設32周年記念

渾身の全速ターンが2M炸裂!吉永則雄が今年早くもV2  
超抜の伸びを見せた阿波勝哉もシリーズ大活躍

丸亀 2月13日~19日

WINNER 吉永則雄



今年1番ドキドキしました(笑)。(2マークは)いや、もう岸壁にぶつかってもいいと思って、思い切っていました。良かったです。(今年2Vに)乗りに乗ってますね。また丸亀に来た時は一生懸命頑張ります。

7日間のロングラン開催となった丸亀のマクール杯は吉永則雄がインから逃げ切り、1月の蒲郡に続く今年2回目の優勝を飾った。6日目は水面悪化の影響で準優は中止。迎えた優勝戦もホーム向かい6mの風が吹き、安定板装着、さらに2周戦となるあいにくの天候の中で行われた。インからコマ18のスタートを切った吉永は1Mを先取。だが、5コースから武田光史が鋭いまくり差してへさをかけてくる。しゃくってしゃくって必死で先頭を守ろうとした吉永は2Mを全速で回り、対岸の方まで流れたが、何とか舟が返ってきたことで先頭を確保した。武田は吉永にまくられたことで一時4番手まで下がったが、前を走っていた吉川昭男と齊藤優に2周バックで追いつくと、再び2着を取り返した。

またこのシリーズ、菊地孝平や吉田俊彦といった実力派が多く顔をそろえた中で目立っていたのが阿波勝哉の伸び。好素性モーターを引いたことも後押しとなったが、とにかくスリット通過後から伸びる、伸びる!5日目の準優進出戦で不良航法を取られてしまい、準優に勝ち上がることはできなかったが、それでも節間を通じて大活躍。SGに出ているころのような阿波が見られたことは大きかった。

優勝戦結果

着	枠	選手名	進入	ST	タイム
1	①	吉永 則雄	1	18	1.12.5
2	⑤	武田 光史	5	23	1.13.5
3	④	齊藤 優	4	19	1.14.0
4	③	吉川 昭男	3	15	1.14.0
5	②	菊地 孝平	2	15	1.15.0
6	⑥	渡辺 豊	6	28	1.15.8

2連単 ①-⑤ 1180円 5番人気 逃げ  
3連単 ①-⑤-④ 6010円 18番人気